

1. 題材名

「ロゴに願いを込めよう! ～ショッピングモール再開発プロジェクト始動!～」

A 表現(1)イ(イ)(2)ア(ア) B 鑑賞(1)ア(イ)) [共通事項]

2. 題材について

(1) 生徒の実態

2学年は、全体的に明るく活発で、学習や行事に真剣に取り組む生徒が多い。美術科の学習でも、課題の内容や方法を理解して熱心に取り組む姿が見られ、授業の制作を楽しみにしている生徒も多く見られる。

表現の学習では、設定されたテーマを理解し、材料や用具を工夫して用いながら取り組むことができる。鑑賞では、自分の言葉で記述したり、仲間の意見に興味を持って聞いたりすることができる。このような実態をふまえ、試行錯誤を繰り返しながらよりよい表現を追究する態度を身につけさせたいと考えている。

表現については、1年次にはデザイン領域では、色の配色や文字のデザイン、自分のマークを考える活動を行った。自分のマークを考える活動においては、マークの鑑賞やアイデアスケッチを描き、制作に加え、自分が考えたマークが相手に伝わるデザインになっているかを分析する活動を行っている。多くの生徒が自分らしさを伝えるためにフォントや色彩等を工夫し、意欲的に制作に取り組むことができた。しかし、一部の生徒の中で、相手にとって伝わるデザインになっているかを十分に意識できず、自分本位の作品になってしまう生徒もいる。今回のロゴを考える活動においてもおおよそ同様の授業計画になるため、1年次に学習を活かし学びを深めるとともに、生徒自身が学習の見通しを持てるように働きかけたい。

(2) 授業について

本題材は、昨年度から継続して2年目の実践となる。昨年度と同様、ロゴを考える活動を通して、自分がどのようなイメージ、どのような思いを込めた店や施設を開きたいのかという主題から、ロゴを発想、構想して表現するものである。昨年度との変更点は以下の通りである。

- ・昨年度の実践では、附属タウンで店や施設を開くことを想定し、生徒がそれぞれ店や施設を選択し、主題を決めて、ロゴを制作した。今年度は、ショッピングモールで店を開くことを想定し、一つの班がショッピングモールの一つフロアを担当することにする。そして、フロア＝班ごとに基礎となる主題を決め、さらに店あるいは施設＝個人で主題を深め、制作することにした。
- ・昨年度は、一斉指導を基本にしながら、生徒は個別に活動を展開した。今年度は、基本的に各班が学びの進捗を調整、展開できるようにした。
- ・指導者は、班や個々の活動状況に応じて働きかけを行うとともに、全体の進路状況に応じて活動のポイントについて共有していくようにした。

今年度の実践では、主に「学習方略」の獲得を目指していくために、「教師主導」の授業ではなく、「学習者主体」の授業の姿を目指していく。そのため今年度は、基本的に班の形態で活動を行っていくことで、生徒同士で対話をしながら、解決できると考えた。また、班ごとに統一した主題を持ち個々でロゴの制作にあたることで、班の連帯感が生まれ協力しながら解決しようとする意欲をより高めることができると考えた。上記の変更点をもとに、自らが考え、自らの力で解決していく環境をつくっていくとともに、「学習方略」の獲得を目指していきたい。

具体的な授業の流れについては次の通りである。まず、2種類のロゴから、形や色彩等の表現の特徴やそこから感じ取れるイメージについて比較しながら鑑賞することを通して、ロゴのよさやなぜ必要なのかについて考えを深めていく。鑑賞で考えたことをもとに、どのようにして制作を進めたら、ロゴが完成できそうかを考え、生徒の言葉から制作の過程を整理していく。そして、その過程をもとに班ごとに目標の達成に向け、班の中で割り当てられたショッピングモールのフロアを、どのような場所にしたいか、そして自分はその主題をどのように捉え、どのような思いを込めた店や施設を開きたいかという、主題（願い）を考える。次に、自分の主題をもとに、形や色彩等を工夫し、iPadを使用してロゴを

制作していく。授業のまとめでは、鑑賞の時間の中で、他者の作品にも触れながら、自分たちの活動について振り返っていく。

本題材は、店や施設に込めた思いやイメージをロゴにして表す活動である。店や施設等、様々な選択肢を与えることによって、自分の思いや願いが尊重されるとともに、表したい気持ちや主題が豊かになると考えた。さらに、導入では鑑賞の活動を行い、2枚のロゴを比較しながら鑑賞することで、形や色彩等の表現の特徴やイメージを感じ取りやすくなると考えた。また、班で活動を行うことによって、常に生徒との対話ができる環境となり、自分の作品について振り返ったり、他者の考えに触れたりすることができるため、生徒それぞれの活動が深められると考えた。その際には、個々の考えや活動について見取っていくために、現段階で自分が取り組んでいることやそのとき感じたり考えたりしていることについてまとめ、整理できるようにワークシートを工夫する。さらに、自分の主題を常に振り返ったり、自分が考えた過程を記録したりできるよう、振り返りシートを工夫する。

3. 全体研究と関わって

本年度より本校では全体研究において『新たな価値を創造する生徒の育成～「主体的な学び」のプロセスモデルを生かした実践を通して～』という研究主題の研究を行う。昨年度でも重視されてきた「主体的な学び」のプロセスモデルを生かして創造性を育む実践について考えている。

これを受けて美術科では3年間の研究を通して、自らの経験等をもとに対象や事象に向き合い、作品を通して「何を表したいか」を問いかけることで主題を生み出し、主題を「どのように表現するか」を形や色、描き方 等を考え解決する中で生まれる新たな意味や価値をつくりだすための資質・能力を育てる授業の実現を目指したいと考える。

2年次では、1年次の課題と2年次の研究主題を踏まえ、以下の内容をポイントに置き、授業を考えた。

- ①「主体的な学び」のプロセスモデルを意識させた学びを実現するための手立て
問いをもち主体的な姿勢を維持しながら活動に取り組ませていくために、プロセスモデルにおける学習方略の獲得に向けた授業の手立てについて考える。

- ②新たな意味や考え方を見出す思考力、判断力、表現力を育成する手立て
発問の構成を継続して分析を行い、考えを深める発問とワークシート（ICT）等に注目して問いを深めていく工夫と、評価について検討していく。

4. 題材の目標及び題材の評価規準

（1）題材の目標

店や施設のロゴを考える活動を通して、店や施設のイメージやそこに込めた思いから主題を生み出し、分かりやすさと美しさ等との調和、統一感等を総合的に考え、形や色彩等を工夫して発想、構想し、表現することができる。

(2) 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
知形や色彩等の性質、それらが感情にもたらす効果や、思いや場所、造形的な特徴等を基に、全体のイメージを捉えている。 技意図に応じて自分の表現方法を創意工夫し、制作の順序等を総合的に考えながら、見通しをもって創造的に表している。	発店や施設のイメージやどのような思いを込めるかというところから主題を生み出し、形や色彩等が感情にもたらす効果や分かりやすさと美しさ等との調和、統一感等を総合的に考え、表現の構想を練ることができる。 鑑伝達のデザインの調和のとれた洗練された美しさ等を感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫等について考える等して、美意識を高め、見方や感じ方を深めている。	態表美術の創造活動の喜びを味わい主体的に主題を生み出し、主題を基に分かりやすさや美しさ等を総合的に考え構想を練ったり、意図に応じて創意工夫し見通しをもって表したりして表現の学習活動に取り組もうとしている。 態鑑美術の創造活動の喜びを味わい主体的に伝達デザインの調和のとれた洗練された美しさ等を感じ取り、作者の心情や表現の意図と創造的な工夫等について考える等の見方や感じた方を深める鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

5. 題材の指導計画（全7時間）※時間はおおよその目安である。

時間	学習内容	学びのプロセスモデルより 主体的な姿勢をもたせるために ※学習方略となるものは太字で示している。	思考・判断・表現力を 育む手立て	
		〔題材について〕 ①関係性店や施設等、様々な選択肢を与えることによって、それぞれの自分の思いや願いが尊重されるとともに、思いを形や色彩等を工夫して表現がしやすい。 難易度昨年度マークの学びから発展させた内容にすることで実現する可能性が感じられる。 必然性生活に身近にあることや自分の夢や趣味等を生かして主題を考えることができるため、やってみたいと感じさせるような題材にした。 多様性sketchbook を使用することで、試行錯誤しながら多様な技法で表現することができる。		
1	・授業内容を知る。 ・2種類のロゴを鑑賞し、表現の特徴等からどのようなイメージを伝えるために考えられたのかを考える。	目標設定 ①ロゴを鑑賞し造形的な視点で捉え、表現の特徴を考える等を通して、目標を捉える。	振り返り ⑦写真や文字等を記録しながら自分の活動の学びを振り返る。	鑑賞…鑑賞資料の選定 ・主題に関わる発問と表現に関わる発問について問いかけ、実際のこの後の活動に繋がる鑑賞を行う。
2	・班ごとの役職を決める。 ・活動の見通しをもつ。	方略計画 ⑥既習事項を基に、活動の流れを考える。		

3	・自分の班が担当したフロアの主題を考える。 ・個々で店や施設の主題を考える。 ・主題を具体化していく。	遂行（発想） ②企画案を基にしながら思考ツール等を活用し、テーマを深める。 ①主題を生み出す際に、生徒にとって身近に感じられるように落とし込む問いかけを行う。 ②主題に対してどういった魅力やイメージを伝えたいのか、考えを広げられるようにヴェブビングを活用したり、他者と交流したりできる機会をつくる。	発想…ワークシート・発問の工夫 ・生徒の発想が深められるように、考える過程に沿ってワークシートを作成する。 ・主題を生み出す際に、生徒にとって身近に感じられるように落とし込む問いかけを行う。
4	・ロゴを考える。（アイデアスケッチ）	遂行（構想） ③アイデアスケッチの段階で鑑賞を行い、イメージを深める。 ③主題をもとにイメージを形や色を絵にして具体化させる問いかけを行う。 ④手が止まっている生徒には、主題を確認させ状況に応じた問いかけを行う。 ③アイデアスケッチを鑑賞することで、他者の見方や考え方に触れる。	構想…ワークシートの工夫 ・イメージを具体化していくためのワークシートを作成する。
5 6	・制作する。	遂行（表現する） ④班の中で常に鑑賞できる体制で制作を行うことで、他者の作品を鑑賞したり、相談したりする中で自分の作品を振り返ることができる。	構想…画材の工夫 ・sketchbookを使用することで、試行錯誤しながら多様な技法で表現することができる。
7	・作品を見せ合う。 ・課題を基に、調整する。	方略調整・遂行（表現する） ③班員以外の他者の見方や考え方を基に、自己の考えを広げ、深め、再度作品と向き合う。	構想…生徒間対話の工夫 ・魅力やイメージをどのように表すか、考えを広げるために活動の中で鑑賞の時間を設定する。
8	・再考する。		
9	・仲間の作品を鑑賞する。 ・活動について振り返る。	全体の振り返り ⑤⑥仲間の作品を鑑賞する中で、自分の作品について振り返る。	

6. 本時の授業

(1) 日 時 令和5年11月23日(木)

(2) 対 象 2年3組生徒 男子 18名, 女子 18名 計36名

(3) 展開 (5/9)

時間	○学習活動 ・活動の内容	指導上の留意点
導入 10分	○前回までの学習について振り返る。 ・生徒の振り返りシートをもとに、全体の進捗状況を確認する。 ○今日の活動のねらいを確認する。 ・鑑賞を行うことを確認する。 ・ロゴを考える上でのポイントを確認する。 ①コンセプトが伝わる。 ②特徴的で覚えやすい ③シンプルでわかりやすい ④ていねいに描かれている。	・他のフロアのメンバーにロゴを見てもらい、自分たちが伝えたいイメージ・思いが伝わっているかを確認することをねらいとすることを伝える。 ・ロゴを考える上でのポイントを確認することで、鑑賞する際の見通しを持つことができるようにする。
展開 35分	○他のグループに見てもらおう中でロゴの分析を行う。 ・ワールドカフェ形式で行う。 ・計20分間の時間を確保し、班で2人1組となって、机をひとつの会場として、鑑賞を行う。(状況に応じて、時間を調整する。) ○自分の班に戻り、共有やロゴの再考に取り組む。 ・他のグループからもらった意見を共有する。 ・意見を基にロゴを分析し、再考する。	・昨年度のロゴの授業で行ったように、まずは第一印象を見てもらうことと、ロゴを考える上でのポイントをもとに意見をもらうことを確認する。 ・1人はロゴの説明を、1人はメモをしっかりと取るように伝える。 ・多くの人から意見をもらうことと、時間に応じて自分の席に戻り、共有や振り返りの時間にしてもよいことを伝える。 ・指導者は班の活動の様子やメンバーに応じて、支援を行う。 ・再考する際にどうしてイメージが伝わらないのかを仲間とよく話し合っ分析するように伝える。
まとめ 5分	○まとめ ・振り返りシートを用いて学習を振り返る。 ・次回の授業の確認をする。	

7. 発問の構成(当日配布)